



# シンポジウム

## バイオリギングの沿岸域総合管理への応用 ー東京湾から考えるー

**日時:**2012年3月1日(木) 13:00-17:00  
**場所:**東京大学弥生講堂 (右図参照、入場無料)  
**主催:**海洋政策研究財団  
**後援:**東京大学大学院農学生命科学研究科  
**問い合わせ先:**海洋政策研究財団・田上英明  
 (E-mail: h-tanoue@sof.or.jp)



## シンポジウムの趣旨

「沿岸域の総合的管理」や「水産資源の保存管理」などの課題は、人々の生活や健康に密接に関係していることから、海洋基本法(2007)の施策の中に組み込まれている。これらの課題については、これまで国、地方自治体、漁業組合、水産研究所、大学などのレベルで、それぞれの目的に応じて個別に取り組まれてきた。しかし、水産資源を保護管理し、沿岸域を総合的に管理していくには、個々の研究を総括して、包括的に取り組むことが不可欠である。これらの課題を解決するには、新しい視点からの調査研究が待ち望まれていた。バイオリギングサイエンス(生物装着型行動・環境計測システム科学)は、日本が独自に開発した世界最先端のシステム科学であり、海洋動物自身が自分の行動と生息環境の情報を収集するという画期的な手法である。近年、この手法を用いて得られた情報を「沿岸域の総合的管理」や「水産資源の保存管理」などに活用していく試みがなされるようになった。

本シンポジウムでは 東京湾を中心にバイオリギング手法を用いて実施してきた調査の成果を報告するとともに、得られた成果の「沿岸域総合管理」への応用に向けて情報交換し、「沿岸域総合管理」に関する将来の方向性を議論することを目的にした。特に、様々な分野で活躍されている専門家や関係者、この課題に関心を持たれている一般の方々や大学院生・学部の学生に参加していただき、参加者の間での活発な意見交換を通じて「沿岸域総合管理」の構築に向けた新しい展開を目指していきたい。

## プログラム

### I 開会の挨拶

13:00-13:10 秋山昌廣(海洋政策研究財団・会長)

### II 基調講演 (座長:青木一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科・教授)

13:10-13:40 寺島紘士(海洋政策研究財団・常務理事)

沿岸域総合管理の重要性

13:40-14:10 内藤靖彦(国立極地研究所・名誉教授)

バイオリギングサイエンスの魅力

### III 研究報告 (座長:内藤靖彦 国立極地研究所・名誉教授)

14:10-14:30 山川 卓(東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授)

東京湾の底棲魚介群集のマクロな動態

14:30-15:20 佐藤克文(東京大学大気海洋研究所・准教授)

東京湾のスズキの行動と環境選択

15:20-15:40 小松輝久(東京大学大気海洋研究所・准教授)

東京湾のアカエイの行動と環境選択

15:40-15:50 休憩

### IV パネルディスカッション (座長:宮崎信之 海洋政策研究財団・主任研究員)

15:50-16:50 バイオリギング研究の沿岸生態系総合管理への応用

パネリスト: 青木一郎・小松輝久・佐藤克文・寺島紘士・内藤靖彦

### V 閉会の挨拶

16:50-17:00 青木一郎(東京大大学院農学生命科学研究科・教授)

意見交換会 17:30-19:30 @弥生講堂